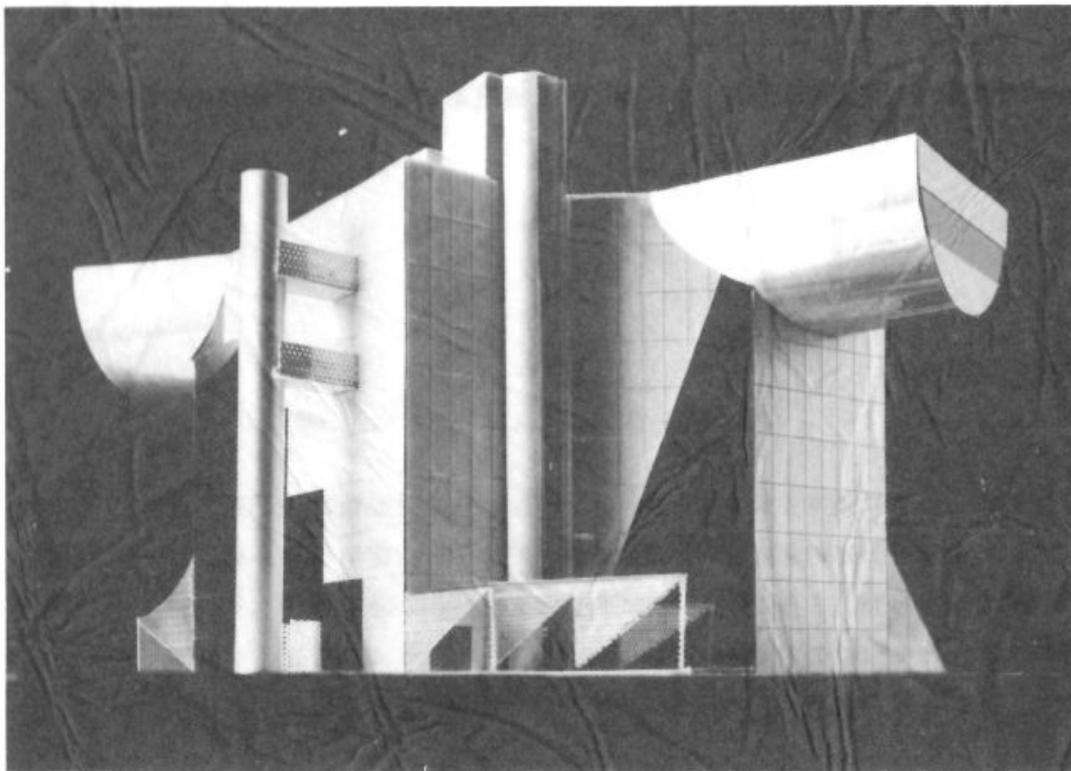


東京工業大学

窯業同窓会会誌

1986年 5月



東京工業大学百年記念館完成図

窯業同窓会規約

1. 本会は窯業同窓会と称する。
2. 本会は会員相互の親睦を図り窯業界の向上発展を期することを目的とする。
3. 本会は事務所を東京都目黒区大岡山東京工業大学内に置く。
4. 本会は以下の事業を行う。
 - (1) 会誌の発行 (2) 名簿の発行
 - (3) その他 幹事会で必要と認めた事業
5. 本会会員は東京工業大学の窯業関係者で組織する(内規参照)。
6. 本会の経費は、会員その他からの事業寄附金、その他の収入で支弁する。会計年度は毎年4月に始まり翌年3月に終る。
7. 本会は毎年総会を開き以下について審議する。
 - (1) 会務の報告 (2) 役員の改選
 - (3) 規約の改正 (4) その他
8. 本会に以下の役員をおき任期は2年とする。ただし再選は差支えない。
 - (1) 会長1名 (2) 副会長若干名
 - (3) 幹事若干名 (4) 常任幹事若干名
9. 会長、副会長および幹事は総会で選出する。常任幹事は幹事の互選とする。
10. 会長は本会を総理し、副会長は会長事故あるとき代行する。常任幹事は会務(庶務、会計)を処理する。幹事は本会の重要事項を審議し、地方、各職場、クラス等の状況および本会に対する意見を本部に連絡する。
11. 本会は名誉会長および相談役をおくことができる。名誉会長および相談役は役員で推薦し、総会で承認をうる。
12. 本会に支部を置くことができる。支部は本部と連絡を密にし、会の発展に協力する。

窯業同窓会の沿革

本会は蔵前時代の東京高等工業学校窯業科第1回生以来同窓親睦の会として発足し、大正時代に鳥又會と称して洋行および帰朝の送迎会や懇親会を開いていたが、昭和の始め頃に愛窯會となり、昭和8年には窯業同窓會となった。さらに昭和18年に八日會(窯化会に通ずる)と改称して

毎月会を催していたが、戦局の悪化とともにその活動は中断した。戦後の昭和22年に会名を再び窯業同窓会と改称して活動を再開した。それ以来会は年と共に発展し、毎年総会および懇親会を開き現在に至っている。

同窓会会長に就任するに当たってのご挨拶

会長 田賀井秀夫（昭13）

中山一郎前会長の後に私が窯業同窓会の会長をお引受けいたすことになりました。もとより、適任かどうかわかりませんが、山内先生をはじめ先輩諸会長のおすすめでしたので、同窓生の皆様の御支援、御助力によって就任することとしました。わが窯業同窓会は百年にわたる永い歴史があって、その名の下に一同が親睦を持つことが、如何に貴重であるか、喜びであるか、しみじみと感じているわけです。窯業という名称が、無機材料とかセラミックスと変ってゆくことが時流とはいえ、私はいつも「窯業」に親しみを持っている者です。明治の初年 Ceramics という言葉を、当時の視学であった植田豊橋先生が、只今と同じジャンルに「窯業」という訳語を当てたのです。それは高温を使って、窯の中で製品を作るからの意味からでした。アメリカでも、今も、この方面をセラミックスと申しているのですから、その取り扱う範囲が広がったとはいえ、あながち「窯業」が現在も適用されない言葉ではないわけです。ですから「窯業」を通じての、わが同窓会であることは、



われわれは大きく評価し、誇としてもよいと思われれます。

今後はわれわれの窯業同窓会会員が社会的に有意義な発展を支え、お互いに一層の親睦の実を上げることを祈念してやみません、と同時に、同窓会の活動に御支援、御助力を切にお願いいたします。

山内俊吉先生の米寿を祝う

山内俊吉先生には本年米寿を迎えられ、誠にお芽出度く、心からお祝い申し上げます。先生の永年にわたる大学、学会、業界等斯界に対する御功績は言うまでもありませんが、私共に対する御温情も一方ならぬものがあります。そこでこの機会に有志が相謀って、いささかお祝いをと企画し、先生に無理にお願いしまして祝賀会を開かせていただいた次第です。具体的な計画は大勢の方々に参画していただいて作成しましたが、記念品としてブロンズの胸像を差上げることに皆の意見がまとまりました。先生はこれも固辞されましたが、

是非にとお願いしてやっとお許しが出たような次第です。

祝賀会の当日は、先生の御縁故、御知り会い、御教導を受けた者260余名が集り、にぎやかに祝宴が続きました。稲葉修衆議院議員をはじめ多くのお祝辞をいただきましたほか、多数の祝電がありました。参会できなかった140余名の皆様からも胸像贈呈の御芳志をいただきましたことを感謝します。

（田賀井秀夫）

山内俊吉先生の米寿祝賀会

名取 賢荘 (昭23専)

元同窓会会長の山内俊吉先生の米寿をお祝いする記念パーティーが4月7日、帝国ホテル富士の間で盛大に開かれました。

山内先生は皆様ご存知のように我々の大先輩で、大正13年に東京高等工業学校窯業科をご卒業になりました。引続いて九州帝国大学工学部に進学されて採鉱学科をご卒業になりました。その後は母校の講師、助教授、教授として定年までお勤めになり、多くの学生を教育し、大きな学問的業績を残されました。またその間に、窯業研究所所長、工業材料研究所所長、そして昭和33年8月からの4年間は第5代の東京工業大学学長としてご活躍になりました。ご定年で退官後は科学技術庁無機材質研究所創設の構想を実現されて、そ

の初代所長として、日本のファインセラミックス工学における指導的役割を果たされました。

祝賀会には260余名が参集して、稲葉修元文部大臣元法務大臣、田中郁三現学長、斎藤進六元学長、後藤優無機材質研究所所長などの祝辞があり、中山一郎前同窓会会長の発声で乾杯に移りました。除幕した等身大の胸像は先生にそっくりの出来ばえで、先生も大変お喜びのご様子でした。

当日の様子はビデオに撮って贈呈し、また笹沼宗一郎氏(昭13)の撮影した写真集を、有志の者からの先生のカラー陶板像と共にお贈りしました。

先生は米寿のお歳とはとてもお見受けできない程のお元気で、出席者の一人一人とご歓談になっておいででした。



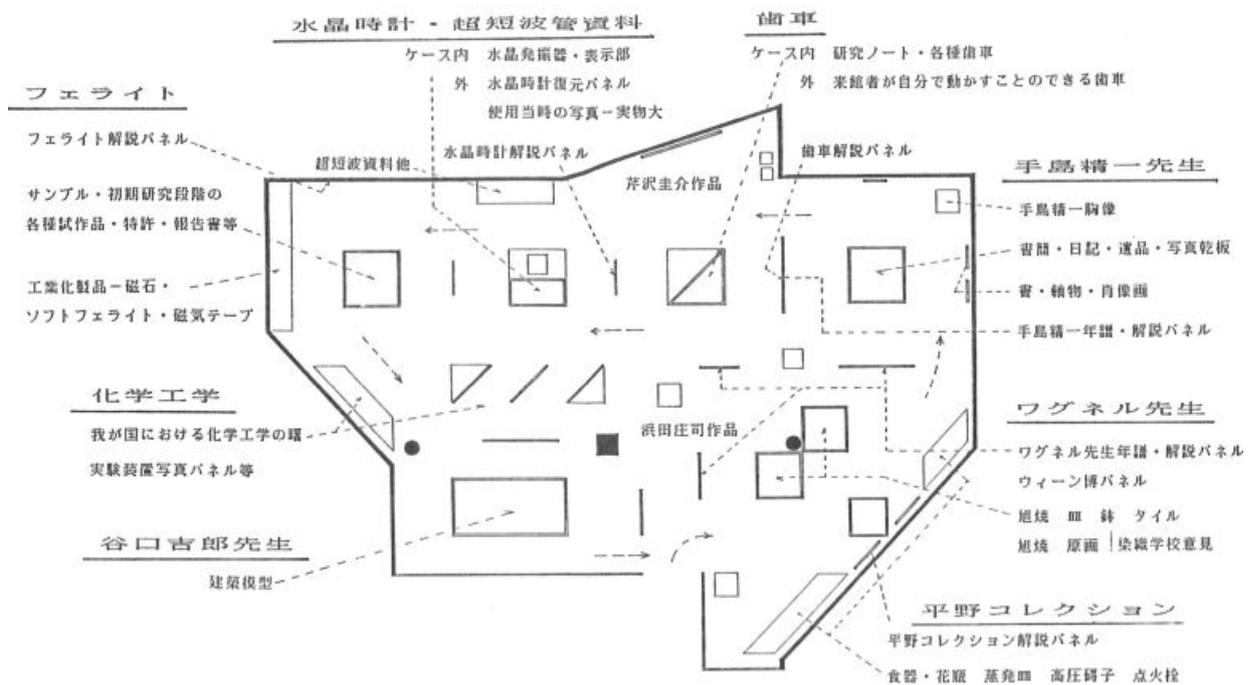
東京工業大学百年記念館の建設

創立百年を記念しての募金活動は各位のご協力によって無事完了し、その中の8億円余を使って百年記念館が建設されることになりました。表紙の絵がそれで、地上4階、地下1階、延2,400㎡の建物が正門横の風洞の位置にできる予定で、間もなく工事が始まって来年の夏には完成することになっています。

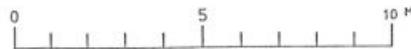
地階は特別展示室と収蔵庫で、ワグネル先生関係の資料や平野陶磁器コレクションなどが常設

展示されます。1階以上の各階には、一般展示室、講堂、会議室、談話室、喫茶コーナーなどが設けられる予定です。

百年記念館では、各学科に関係のある歴史的な遺品、文書、記録、写真などを蒐集することになっています。窯業関係の古い資料をご存知の方はぜひご連絡下さるようお願いします。なお、寄附していただくことが難しい資料については、複写して直ちにお返しすることになっています。



百年記念館地下特別展示室計画一案
(1986.4.28 展示部会資料)



逝くものは斯くの如きか

宇田川重和 (昭27卒)

春は名のための厳しい寒さが続くが、降りそそぐ陽光のきらめきの中にかすかな春の気配が感じられる。そしてやがて訪れる本格的春とともに本学を退官することを思うとき感無量のものがある。

昭和27年5月助手になって以来34年間、優れた先輩、同僚、学生に囲まれ本学における教育・研究に携わることができたことはこの上ない幸せであった。特に最近の10年間に2度も病に倒れ死線をさまよった私が元気に本日を迎え得たのは誠に幸運であったとしか言いようがない。これひとえに皆様方の御厚情の賜と感謝の気持で一杯である。

昭和31年から約3年間ペンシルバニア州立大学の Brindley 教授の下に留学した。先生は米国鉱物学会の Roebling Medal を受賞したほどの碩学であり、学問上では極めて厳しかったが、非常に心温い人間味豊かな方であった。まだ若かった私にとって先生の下での3年間の厳しい研究生生活は極めて貴重な体験であり、また私の学問に最も大きい影響を与えたと言える。セラミックスの研究において私なりの研究手法を育て上げ得たのも先生のお蔭である。御記憶の方はもう少なくなっただと思うが、先生は、本学が戦後にお招きした最初の客員教授で昭和36年春に来日され約3ヶ月間講義と研究指導をなされた。その後本学関係者をはじめ多くの日本人研究者が先生に大変お世話になったが、残念ながら最近お亡くなりになられた。しかし先生の学風は本学科の若い研究者や学生をとおして脈々と引継がれてセラミックスの分野で今も生き続けている。ここに先生



から賜わった限りなき学恩に心から感謝申し上げる次第である。

「逝くものは斯のごときか、昼夜を舍かず」。

流れ去ってもどらない川の流れるに、過ぎ行く時の様を嘆ずるこの論語にある辞がひとしお身にしみて感じられる今日この頃である。しかし私は、この辞を「万物は川の流れるのごとく絶えず発展を続ける」と解し、人間のたゆまぬ努力を求める教えと受けとめたい。昭和57年の大病以後を神より与えられた“余得の人生”と考え、社会に少しでも役立つべく、退官後も一層の精進を致す所存である。

大岡山を去るにあたり、愛する本学の限りなき発展と皆様方の御多幸をお祈り申し上げる次第である。

停年退官にあたって

浜野健也 (昭23卒)

「窯業は何をやっても新しい仕事になる」という岡野郁郎先輩(昭21年卒)の話しに共鳴して昭和20年に窯業学科へ入学しました。最初の講義で山内先生が「窯業には基礎学問が無い。君達のような若い人に期待している」とお話しになったのをよく憶えています。卒論では「陶磁器を焼く時にどんな変化があるかを研究したい」と河嶋先生にお願いしたところ「それには組織を調べる手段をマスターしなければいけない」と言う御指示をいただき、当時はまだめずらしかった電子顕微鏡の勉強に利根川洋氏と一緒に日立の中研に毎週行かせていただきました。それと同時に山田久夫先生に偏光顕微鏡の特別講義をしていただきましたが、これが今日まで偏光顕微鏡を主な研究手段として微構造についての研究を続けることになった始まりです。

昭和23年に卒業して商工省の東京工業試験所に入り、野口長次課長(昭5年卒、故人)の下で卒論の延長の仕事をさせていただきましたが、昭和33年に山田久夫先生の助手として採用していただき本学に帰ることができました。そして設立間もない学振124委員会(超塩基性耐火物)の委員をして居られた山田先生のお手伝いで、MgOの焼結の仕事始めたのが、ファインセラミックスを研究することになったきっかけです。

「窯業」と言っても、「養魚ですか」と言われた時代は、研究するにも十分な設備がなく、欧米の文献を読みあさって吸収することに専念していた時代でもありました。今日では、外国の大学の研究室を見学しても設備的には驚くこともなく、むしろ日本製の装置を自慢気に説明されてあれあれと思ったり、研究面でも世界の先端に肩を並べていると自負できるようになった今日までよくも進歩したと感慨深く思う次第です。このよう



な激動の時代の40年間を、第一線の研究者として仕事させていただくことができたことの有難さと幸運とを感謝せずには居られません。

本学を離れるにあたって、改めて、沢山の立派な先輩、同僚の先生方、優秀な博士課程、修士課程、卒論研究学部学生、研究生の皆様には厚く御礼申し上げます。

それに加えて、生来の気短かですぼらな性格にもかかわらず、最後の5年間を所長という管理職を勤めさせていただき、多数の方々に御迷惑をおかけしたことをお詫びします。

退官後は、神奈川大学工学部応用化学科の教授として、引続き研究、教育を続ける予定です。今後ともいろいろと御支援、御鞭達下さいますようお願い申し上げます。

最後に無機材料工学科、材料科学専攻、工業材料研究所、東京工業大学、そして窯業同窓会のみますの御発展をお祈り申し上げます。

太田京一郎先生退官記念パーティー

後藤誠史（昭39卒）

去る3月28日、太田京一郎先生の退官記念パーティーが、本学石川台4号館講義室で開かれました。

太田京一郎先生は太平洋戦争中から現在まで四十数年の間、私達の学科のためにご尽力下さいましたが、本年3月31日で定年を迎えられました。その前半は川久保正一郎先生の研究室に所属されて、親身になって学生の指導に当たられました。

川久保先生のご退官後は、当時新設された無機材料工学科学生実験室の担当教官として、現在に至るまで中心的な役割を果してこられました。そのお陰で、無機材料工学科の学生実験は内容も設備も、東工大の各学科の中でもっとも充実していると自慢できるようになりました。

それに加えて学生実験室は、研究室に所属していない学部2、3年次の学生にとって格好の溜り場であり、公私を含めて非常に重要な情報の交換場所になっているのです。そしてそのお陰でどれだけ多くの学生がなんとか卒業して社会に出て現在活躍中であるかは皆様ご存知のことです。

昭和40年代のはじめは全国的に学園紛争が吹き荒れたときで、本学にとっても大変な試練の時期でした。この時代には、多くの学生や職員が太田先生に悩みを持ち込んで議論を交し、諫められたり励まされたりしたことでした。

太田先生の送別会は、川久保研や昭和50年以後の学部卒業生を中心にご連絡したところ、遠く九州からも出席していただいて、90名以上にぎやかなパーティーを開くことが出来ました。

パーティーは各研究室が分担して、サラダをつくるもの、包丁の腕をふるって刺身をつくるもの、



太田先生お仕込みのおでんや煮込みをつくるもの、それぞれに張り切って準備しました。このような自前のパーティーは、学生の歓迎会や追い出しコンパのときに、太田先生が学生と一緒に準備されたことからはじまって、今では無機材料工学科の大事な行事の一つになっています。

当日は、釣りが大好きな先生に「釣り道具代」の記念品贈呈と、学生有志から「帽子」のプレゼントがありました。仕事の引き継ぎや後片付けでお忙しかった先生も、パーティーの間は大変ご機嫌で楽しそうにお見受けしました。それに加えて席上で、川久保先生が春の叙勲で勲三等旭日章をお受けになることが決まったとの報告があり、重ね重ね嬉しいことです。

最後に、先生の今後の一層のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

工学部無機材料工学科の近況

現在、東工大は工学部、理学部および4つの研究所から成り立っており、セラミックス関係者は工学部の無機材料工学科、工業材料研究所、原子核工学研究所などに所属しています。

学部は理学部が6学科、工学部が17学科から構成されていて、無機材料工学科の学部学生定員は昨年度から34名になりました。学生定員の増加に伴って2年次および3年次の学生実験室を拡張して実験設備と器材を増設しましたが、さらにカリキュラムも再検討しています。学部は類別入学制をとっており、2年に進むときに志望と成績順に各学科に所属しますが、無機材料工学科に進む学生は2類に入学することになっています。2年次および3年次では無機材料工学の基礎および専門科目について勉強し、4年生になると各研究室に所属して卒業研究に従事します。学部の教育には研究所の関連の教官も協力しており、卒業研究にそれらの研究室を志望することもできます。

大学院理工学研究科無機材料工学専攻は修士課

程学生定員18名、博士課程学生定員6名をもち、学生定員の1/2は学内推薦で、のこりは一般選考によって充足しています。無機材料工学科は当節は人気のある学科の一つで在学生の成績も優良です。学部卒業生のほとんどは大学院に進学するので、就職の対象となるのは大部分が修士課程修了者です。

現在の無機材料工学科には6講座があり、教授6名、助教授6名、助手9名、技官・事務官7名の定員をもっています。

本年3月には宇田川重和先生と太田京一郎先生がご退官になりました。また、昨年4月に大津賀望先生が鉱産原料講座の教授に移られて、昨年5月に井川博行先生が結晶質材料講座の助教授に昇任され、本年5月には岡田清先生が鉱産原料講座の助教授に昇任されました。それから、安盛敦雄さんと安田公一さんが助手として、福井恭子さんが技官として就任されて、学科の陣容が大分若返りました。

工学部無機材料工学科の組織と職員（昭和61年5月）

講座名	教授	助教授	助手	技官・事務官
無機合成材料	加藤誠軌	水谷惟恭		松山勝美 桜井修
結晶質材料	選考中	井川博行	浦部和順	福富路子
非晶質材料	山根正之	川副博司	井上 悟 安盛敦雄	
鉱産原料	大津賀 望	岡田 清	平林順一	福井恭子
材料加工学		大門正機	後藤誠史 浅賀喜与志	
機能性 セラミックス	木村脩七	松尾陽太郎	安田公一	大沢栄也
共 通			林 剛	上西義介 山口千恵子

無機材料工学科卒業生（昭和 60 年度）

氏名	研究室	卒業論文 題目	進路
秋山勝徳	木村・松尾	SiC 基板上への CVD-SiC 皮膜の形成	修士課程進学
安藤実彦	加藤・水谷	Zr-O-N 系セラミックスの微構造と機械的性質	修士課程進学
石崎倫朗	大門	β -C ₂ S の ESR による検討	修士課程進学
磯村 学	木村・安田	複合材料の破壊と AE	修士課程進学
稲熊宜之	中村	EuTaO _x 系の高温還元処理による構造変遷と Eu イオンの常磁性	修士課程進学
内山 潔	加藤・水谷	アルコキシド加水分解法によるイットリア添加ジルコニア単分散微粒子の合成	修士課程進学
馬屋原芳夫	山根・川副	PC 法による特殊ガラスの作成に関する基礎研究	修士課程進学
岡野知水	宗宮・吉村	ZrO ₂ -VF ₃ -V ₂ O ₃ 系における固溶体生成と相関係	修士課程進学
荻原博之	木村・松尾	アルミナの絶縁破壊に及ぼす熱処理の影響	修士課程進学
織戸敏弘	橋爪	高平行 X 線回折法による InAsP および GaAs 単結晶の完全性の研究	語学専門学校
織部篤樹	丸茂・森川	Zn ₂ GeO ₄ の結晶構造	旭化成工業(株)
小西正芳	大門	セメント硬化体の乾燥速度の測定	修士課程進学
五島陽子	大津賀	アンモニウム型モンモリロナイトの水熱合成とその基礎的性質について	修士課程進学
西郷宏明	星野	無機材料中における放射性物質の分布測定に関する研究	修士課程進学
佐藤 清	木村・松尾	炭素基板上への CVD-SiC 皮膜の形成	修士課程進学
島 耕司	宇田川・井川	β "-アルミナ型 R ⁺ -ガレット中の非交換性ナトリウムイオンの研究	修士課程進学
末松久幸	井関・丸山	SiC とステンレス鋼とのろう付けにおける Ti の役割	修士課程進学
鈴木龍太	山根・川副	CdO-B ₂ O ₃ -SiO ₂ 系ガラスの光伝導	修士課程進学
高井秀忠	山根・川副	Al ₂ O ₃ -SiO ₂ 系ガラスの低温合成	修士課程進学
高木敏行	大門	体積変化によるセメント水和の測定	修士課程進学
高澤敦朗	木村・松尾	アルミナ繊維/アルミナ系複合材料の試作と機械的性質	修士課程進学
高野幸夫	山根・川副	PAS 測定装置の試作	修士課程進学
谷内俊之	宇田川・井川	コーディエライトの熱膨張へのアルカリ固溶の影響	修士課程進学
中村和郎	加藤・水谷	アークイメージ FZ 法で育成したルビー単結晶の X 線トポグラフ法による評価	修士課程進学
花上康宏	宗宮・吉村	ムライト-ZrO ₂ 系超急冷非晶質の熱間加圧成形	修士課程進学
原沢 毅	宇田川・井川	Gd ₂ O ₃ -ZrO ₂ 系正方晶ジルコニアの研究	修士課程進学
平松徹也	沢岡・近藤	石英ガラスの衝撃誘起発光と衝撃圧縮状態の検討	修士課程進学
舟窪 浩	加藤・水谷	CVD 法による窒化ニオブ薄膜の合成	修士課程進学
吉田 明	丸茂・森川	超高压下における CoS ₂ (カティエライト) の構造解析	三菱金属(株)

無機材料工学専攻（修士課程）修了生（昭和 60 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
赤沢 潔	大門	スラグの水和反応機構について	東レ(株)
池田外充	加藤・水谷	Zr-O-N 系化合物の合成と性質	キヤノン(株)
石沢 均	加藤・水谷	アルコキシド噴霧熱分解によるイットリア安定化ジルコニア微粉末の合成と性質	日本光学工業(株)
牛丸之浩	宇田川・井川	コーディエライトの熱膨張におよぼす相転移の影響	旭硝子(株)
大橋玄章	宇田川・井川	$\text{NH}_4^+\text{-H}_3\text{O}^+\text{-}\beta$ アルミナ型化合物焼結体の作製とガス電池の試作	日本碍子(株)
緒方浩二	宇田川・井川	$\text{CeO}_2\text{-Y}_2\text{O}_3$ 系ジルコニアの結晶構造と熱的安定性	黒崎窯業(株)
萩原 隆	加藤・水谷	アルコキシド加水分解による単分散金属酸化物微粒子の合成と性質	博士課程進学
菊谷信悟	宇田川・井川	セリア添加正方晶ジルコニアセラミックスの研究	徳山曹達(株)
佐伯 淳	加藤・水谷	電子顕微鏡によるイットリア部分安定化ジルコニアの微細構造の研究	博士課程進学
玉置 充	山根・川副	分子動力学法による ZnCl_2 系ガラスの構造と物性に関する研究	日本特殊陶業(株)
野々部顕治	大津賀	天草陶石中の石英に関する研究	(株)INAX
柳田裕昭	山根・川副	As-S 系ガラス中の結合不整	HOYA(株)
矢野宏明	大門	$\beta\text{-Ca}_2\text{SiO}_4$ の水和に及ぼす焼成条件と無機添加物の影響	住友金属鉱山(株)

無機材料工学専攻在学生（昭和 61 年度）

博士課程 3 年次 池本 正（加藤・水谷）

博士課程 2 年次 瀨瀨政己（山根・川副）

博士課程 1 年次 萩原 隆（加藤・水谷）、佐伯 淳（加藤・水谷）、渡辺裕一（山根・川副）

修士課程 2 年次		修士課程 1 年次	
阿知波達雄（木村）	中崎健志（山根・川副）	秋山勝徳（大津賀）	島 耕司（井川）
天野 勉（大門）	中島 章（宇田川）	栗津浩一（山根・川副）	鈴木龍太（山根・川副）
鶴澤克久（加藤・水谷）	橋本知孝（加藤・水谷）	安藤実彦（加藤・水谷）	高木敏行（大門）
碓井俊一（大門）	林 滋生（大津賀）	石崎倫朗（大門）	高澤敦朗（木村・松尾）
大久保総一郎（山根・川副）	星 雄二（大津賀）	内山 潔（加藤・水谷）	谷内俊之（井川）
小笠原俊夫（木村）	門馬 旬（宇田川）	馬屋原芳夫（山根・川副）	中村和郎（加藤・水谷）
北林徹夫（木村）	八木 健（加藤・水谷）	萩原博之（木村・松尾）	原沢 毅（井川）
下嶋浩正（宇田川）	劉 天泉（加藤・水谷）	小西正芳（大門）	舟窪 浩（加藤・水谷）
高橋利和（山根・川副）		五島陽子（大津賀）	金 相東（木村・松尾）
樽田誠一（大津賀）		佐藤 清（木村・松尾）	呂 宗昕（加藤・水谷）

無機材料工学科在学生（昭和 61 年度）

学部 4 年次		学部 3 年次		学部 2 年次	
井口裕二（井川）	竹中康之（丸茂・森川）	相京浩幸	木村 敦	今下勝博	寺本吉伸
市原高史（大門）	田中哲也（大門）	赤津 隆	近藤高功	岩男俊孝	中村博幸
岩崎光伸（山根・川副）	田邊 浩（木村・松尾）	阿隅一将	篠原茂之	上田恵司	長野 弘
榎本尚也（井川）	谷 淳志（木村・松尾）	安間元哉	白井隆雄	内山一郎	夏目 論
押切光丈（山根・川副）	谷口硯士（安田）	飯田雅人	瀬戸康博	金田圭一	成田 博
戒能健史（井川）	中村好一（大門）	池尾陽作	高島文雄	河村真一	西 一洋
片桐 真（井関・丸山）	西村聡之（木村・松尾）	池田将基	土田敬之	久保宏一郎	二瓶靖和
桂田健志（澤岡・近藤）	西山 伸（加藤・水谷）	市川孝一	寺田博憲	越川克己	原山正明
川崎克己（中村）	早川 信（宗宮・吉村）	井上誠二	中野智志	近藤隆治	笛田和裕
小林幹雄（加藤・水谷）	福山洋平（澤岡・近藤）	植田尚之	中村隆裕	下村克彦	牧 順一
佐々木一成（井関・丸山）	宮内昌明（加藤・水谷）	上野 晃	南 敦	鈴木康義	町 徳海
沢辺佳成（中川）	安岡正喜（大津賀）	大井田俊彦	西沢 学	聞 和彦	松浦 新
篠澤太郎（山根・川副）	矢野哲司（山根・川副）	大橋直樹	福島康雅	関口淳之輔	三宅達朗
島 裕和（大門）	山田俊幸（井川）	落合忠昭	松田竜一	高木保宏	宮崎広行
鈴木敦則（丸茂・森川）	石崎雅人（木村・松尾）	加藤政之	南澤一右	高野章弘	武藤晴文
角野裕康（加藤・水谷）	野村克己（大津賀）	金子修一	吉富靖樹	高橋克則	矢澤武志
瀧川賢司（大津賀）	西岡正雄（宗宮・吉村）	神田 肇		水流靖彦	脇谷尚樹

長津田・工業材料研究所だより

浜野健也（昭 23）

加藤山斜面の梅林に紅梅、白梅が満開になりました。桜の少ない長津田キャンパスですが、去年は退官教官の寄付によって桜の植樹が行われました。キャンパスの西奥に野球場やテニスコートを含むグラウンドが完成し、すずかけ通りもきれいになるなど、整備も少しずつ進行しています。

工材研西隣に昨春完成した地上9階の合同棟には工材研、総合理工学研究科の材料科学専攻、像情報工学研究施設がそれぞれ一部入りしましたが、工材研は総合理工の協力講座の研究室も含めて約3,000m²のスペースを確保でき、昨年夏から

秋にかけて一部の研究室が移転しました。写真はキャンパスの北側から見た工材研の全景です。

工材研創立50年記念の募金による環境整備はまだ完了していませんが、周辺にクスノ木、椿、モミジ、カイズカイブキなどの植樹を行い、山内俊吉先生御寄贈の学会誌なども含めた資料室、さらに小人数の会議にも使える名誉教授室の設置なども着々と進行中です。

工材研の現在の職員の移動は、この1年間に吉村先生が教授に昇任、宇都宮先生が助教授に昇任

したのち、三井鉱山(株)の中央研究所に移られ、また阪大産研の河合教授、岡山大の可児助教授に1年間の客員教官をお願いするなどの変化がありました。またここ数回「長津田・工材研だより」の執筆を担当して来た浜野はこの3月で定年退官し、4月から工材研所長は黒正清治教授に交代します。



工材研の全景（昭和61年3月）

材料科学専攻（修士課程）修了生（昭和60年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
東 朱美	木村・安田	炭素繊維/CVD 炭素複合材のキャラクタリゼーション	興亜石油(株)
池田道弘	中村	マイクロ波領域における高誘電率・低損失材料の研究	三菱化成工業(株)
大須賀卓生	丸茂・森川	EXAFS 分光法による合成フッ素雲母中の Mn, Co 原子の状態分析	旭硝子(株)
岡本芳明	浜野・中川	ZnO-Nb ₂ O ₅ -MnO 系バリスターの電氣的性質と微構造	(株)東芝
片柳克夫	丸茂・森川	YbRh ₃ B 結晶中の電子密度分布	三菱化成工業(株)
獅子口 清一	橋爪	高温粉末結晶構造迅速解析装置の開発と応用	日本電気(株)
鈴木和雄	宗宮・吉村	高温高圧アンモニアを用いた Ti, Zr および Si 窒化物の合成	日本光学工業(株)
佃 洋	浜野・中川	チタン酸アルミニウムセラミックスの微構造と機械的性質	三菱重工業(株)
中川清見	宗宮・吉村	固相反応及び水熱反応による CeO ₂ -Y ₂ O ₃ 系の相関係	三菱化成工業(株)
永塚貴幸	中村	NaNO ₃ -LiNO ₃ 系溶融塩中の Li イオンの除去	キヤノン(株)
濱野明弘	斎藤・阿竹	セラミックス誘電体 BaZnGeO ₄ および BaTiO ₃ の相転移とキャラクタリゼーション	博士課程進学
原田次郎	中村	示差熱分析を中心としたペロブスカイト型複合酸化物と塩化物間の反応挙動の研究	三菱鉱業セメント(株)
深井孝行	木村・安田	AE 法によるメディアックラックの研究	昭和電工(株)
正岡礼二	斎藤・阿竹	SO ₂ -O ₂ -SO ₃ 雰囲気における耐熱合金の高温腐食と予備酸化処理	防衛庁
峯田 貴	星野	浮遊帯溶融法による酸化アルミニウムの精製と不純物の平衡分配係数	(株)東芝
安尾浩行	澤岡・近藤	ドップラー干渉計による衝撃圧縮曲線の計測法	住友電気工業(株)
山口英信	星野	無機材料中に微量含まれる α 線放射体の粒子トラック法による測定	日産自動車(株)
山室秀雄	中川・浜野	ムライトセラミックスの機械的性質に関する研究	三菱金属(株)

横川善之	吉村・今井	蛍石関連相 $3R_2O_3 \cdot Ta_2O_5$ (R=希土類) の合成と相変化	博士課程進学
梁 瑞興	中村	La_2FeMO_6 型ペロブスカイトにおける Fe-M の原子価状態 (M:3d 遷移金属)	博士課程進学

材料科学専攻（博士課程）修了生（昭和 60 年度）

氏名	研究室	博士論文 題目	進路
李 成元	浜野・中川	ZnO-希土類酸化物系セラミックスの微構造と電気的性質	富士通(株)
K. S. Ramesh	木村・安田	High Temperature Deformation Behavior of MgO and CaO at Low Stresses	帰国

原子炉研だより

井関 孝善（昭 38 学）

原子炉工学研究所は、昭和 60 年度に時限部門である原子炉安全性工学部門が廃止されて、代わりにブランケット安全工学部門が新設されるという組織上の変化がありました。時限部門は 7～10 年の年限内に一定の研究成果を持ってその使命を終えるよう要求されます。本研究所 11 部門のうち、トリチウム化学部門を加え 2 部門が時限です。

我々の所属する原子炉燃料部門には、昭和 60 年 4 月 1 日から、矢野豊彦君（昭和 50 年学部卒）が長岡技術大より配置換ということで、助手に着

任してくれました。無機材料工学科出身のよいところを持って、新風を吹きこんでくれるものと期待しております。彼の他に教授井関孝善、助教授丸山忠司、技官今井雅三で部門を構成し、

1. 炭化ケイ素を主とする構造用セラミックスの調製とキャラクタリゼーション
 2. セラミックスの照射損傷
 3. 炭化ケイ素の接合
 4. 炭素材料の非破壊検査
- などの研究を行っております。

原子核工学専攻（修士課程）修了生（昭和 60 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
北村秀哉	井関・丸山	炭化ケイ素の照射損傷	東京電力(株)

エネルギー科学専攻（修士課程）修了生（昭和 60 年度）

氏名	研究室	修士論文題目	進路
高田直弘	井関・丸山	炭化ケイ素とステンレス鋼との接合	(株)東芝

昭和 60 年度事業資金寄附者芳名 (敬称略)

個人の部

<p>60,000 円 中山一郎</p> <p>30,000 円 各務芳樹、河嶋千尋、速水多根雄、 水野茂樹、森谷太郎、山内俊吉</p> <p>25,000 円 佐沢光夫、吉田一栄</p> <p>20,000 円 石塚正信、斎藤進六、真保義郎、 田上嘉秋、長崎 勸、西田一雄</p> <p>15,000 円 田中博一、森本孝治</p> <p>10,000 円 赤沢次男、飯塚誠厚、伊奈辰次郎、 宇野達路、奥田 博、小坂丈予、 開沼章夫、加藤誠軌、亀井四郎、 菊地 央、小泉善之助、小島豊之進、 小柳道男、新庄重生、宗宮重行、 左右田孝男、田崎清司、田端精一、 常泉徳次、利根川洋、中沢三知彦、 名取賢荘、成瀬庸一、長谷川安利、 福井 哲、藤井豊男、森田直文</p> <p>8,000 円 石井峰郎、吉村昌弘</p> <p>7,000 円 岡田 清</p> <p>5,000 円 青木 斌、赤尾洋二、浅野正和、 安保英司、井関孝善、稲村 泰、 入江日出男、梅田夏雄、江口民行、 江藤哲夫、大津賀望、大矢克吉、 加藤欽一郎、金丸豊之助、倉田貢、 斎藤久明、斎藤安俊、酒井 享、 素木洋一、鈴木重夫、田中広吉、 田村忠臣、塚本 行、中村純一、</p>	<p>長岡為行、浜野宏輝、原田 賢、 日浦 致、平野真一、藤本章一郎、 牧村信之、松崎錠三、松田 弘、 丸茂文幸、村上光一、森 元邦、 山内尚隆、山根正之、吉武素水、 渡辺一行</p> <p>4,000 円 井川博行、江尻寿憲、高橋紘一郎、 長谷貞三</p> <p>3,000 円 石井鉄弥、猪股吉三、内田健治、 上西義介、近江成明、大木通胤、 尾野勇雄、片瀬伝治、北村友太郎、 熊代幸伸、今間明春、酒井利和、 佐々木茂弑、澤岡 昭、渋谷益男、 関口 淳、瀬高信雄、高宮陽一、 竹沢義郎、田辺昌之、田畑勝弘、 田村信一、大門正機、内藤 繁、 中条一秀、中村周清、平林願一、 藤井 稔、毛利尚彦、森川日出貴、 吉田 格</p> <p>2,000 円 浅見琢也、石川演慶、宇都宮泰造、 加藤健造、倉本 透、外川 進、 塩川 皓、多田昌史、中村藤一郎、 中村 篤、日笠泰行、福田和茂、 松尾陽太郎、松山城仁、吉谷川 貢、 張 鴻烈</p>
--	--

昭和 60 年度収支報告

昭和 60 年 4 月 1 日～至昭和 61 年 3 月 31 日

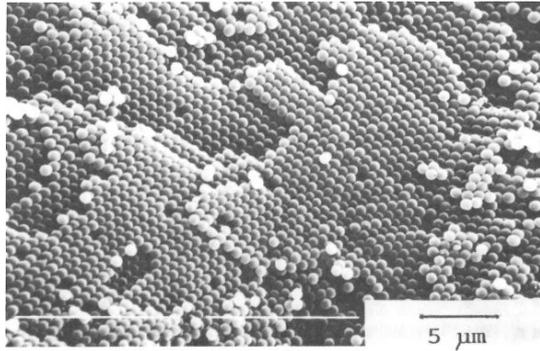
収 入

前年度繰越し金	1,914,278 円
総会・懇親会会費	625,000 円
事業資金寄附個人	1,074,000 円
銀行利子	23,486 円

合 計 3,636,764 円

支 出

60 年度総会・懇親会会費	538,640 円
記念品代及び送料	55,960 円
印刷代 (会誌印刷及び振込手数料)	523,870 円
通信費：会誌発送	196,690 円
ワグネル祭通知	76,440 円
その他 (総会・役員会連絡用)	104,000 円
文房具その他	23,930 円



「未来のセラミック原料：
密充填した単分散TiO₂粒子」

弔電	690 円
次期繰越し金	2,116,544 円
<hr/>	
合計	3,636,764 円

昭和 60、61 年度 窯業同窓会役員

名誉会長 山内俊吉
会長 田賀井秀夫
副会長 素木洋一、田中広吉、境野照雄、
田端精一
相談役 石塚正信、倉田元治、江副勇馬、
大石信男、田辺三郎、中山一郎、
長崎 勲、森谷太郎、斎藤進六
常任幹事 加藤誠軌、山根正之、名取賢荘、
大門正機、安田栄一、
幹事 左右田孝男、尾野勇雄、笹沼宗一郎、
長崎準一、田上嘉秋、居上英雄、
福井 哲、加藤政良、島岡達三、
田中 弘、奥田 進、佐野和夫、
赤沢次男、鈴木哲夫、藤井豊男、
埜崎堅造、奥田 博、小出儀治、
梅田夏雄、藤井重信、太田千里、
鈴木弘茂、遠藤幸雄、古賀義根、

浜野健也、田中博一、毛利良雄、
大槻彰一、利根川洋、福浦雄飛、
牧村信之、山本 登、加藤 鈔、
吉田一栄、佐野川建、杉浦孝三、
各務芳樹、川浪重年、菊地 央、
成瀬庸一、宗宮重行、浅野正和、
宇田川重和、亀井四郎、福井 博、
安竹了和、山本博孝、堀江 勲、
矢島一治男、原田 賢、吉野成男、
中村 敦、青木 進、長谷川安利、
尾野幹也、吉村昌弘、武 孝夫、
小坂丈予、鯉江七郎、倉田 貢、
大場立夫、水谷惟恭、井関孝善、
木村脩七、星野芳夫、丸茂文幸、
大津賀望、中村哲朗、今井久夫、
斎藤安俊、井川博行、上西義介、
中川善兵衛

住所変更などのご連絡は下記へお願いします。
152 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部無機材料工学科
加藤研究室 (石川台 4 号館) 気付
窯業同窓会事務局
Tel: 03-726-1111(内) 2518

事業資金のご送金は下記あてにお願いします。
銀行振込の場合
第一勧業銀行 大岡山支店 普通預金口座
1257281
東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学内
窯業同窓会 山根 正之

郵便局振込の場合
口座番号東京 0196855
窯業同窓会